

# 苫小牧国際リゾート構想 -イノベーションリゾートの実現に向けて-

## 1. 苫小牧国際リゾート構想 背景

- 日本・北海道・苫小牧が抱える社会的課題の認識 -

### 【4つの社会的課題】

- ①人口減少問題
- ②空き家インフラ問題
- ③テクノロジー革命とパラダイムシフト
- ④ライフスタイルの変化

### 【北海道が抱える課題】

- ・ 人口減・人口流出
- ・ 交通ネットワーク維持コスト

### 【苫小牧市が抱える課題】

- ・ 人口減・人口流出
- ・ 新産業の必要性
- ・ 市街地の空洞化

### 【北海道の強み】

- ・ 豊富な自然・観光資源
- ・ 日本の食糧庫

### 【苫小牧市の強み】

- ・ 北海道ゲートウェイ
- ・ ダブルポート
- ・ ものづくり基盤

北海道・苫小牧市の強みを活かして課題を解決する対策が必要

- ①公共投資依存から脱却し、民間活力（民間ノウハウ・資金）による自立を目指す
- ②インバウンド誘客・道内周遊観光促進の視点より、北海道IR立地に最適な苫小牧

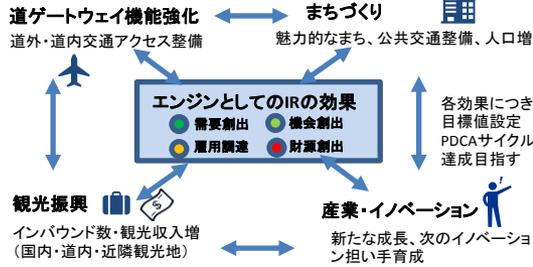
### IRをエンジンとした苫小牧国際リゾート構想へのチャレンジ

## 2. 苫小牧国際リゾート構想 - IRの効果を活用した社会的課題の克服 -

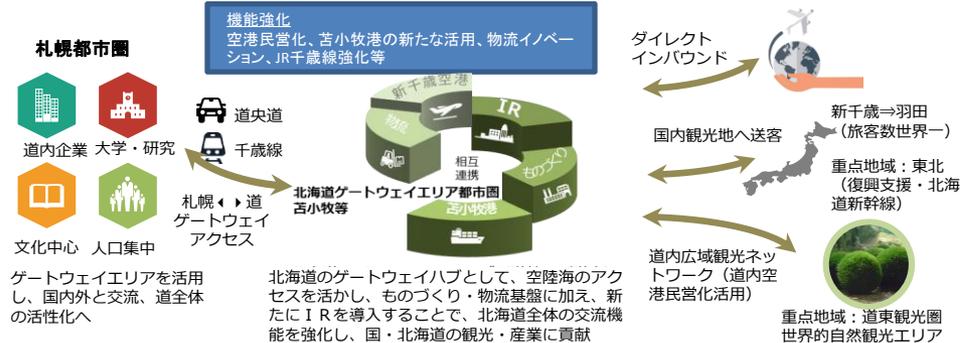
### 苫小牧国際リゾート構想の7か条

- 1 北海道と苫小牧の、地域再生の構想です。
- 2 世界に発信できるリゾート施設を創設します。
- 3 公共投資に頼らず、民間の投資と活力を活かします。
- 4 環境と共生した、21世紀型のリゾートにします。
- 5 食、美術、音楽、スポーツなど、文化を大切にします。
- 6 リゾート以上に、「イノベーション」の場を目指します。
- 7 依存症など社会的損失の最小化を目指します。

### IRの効果が生み出す相乗効果



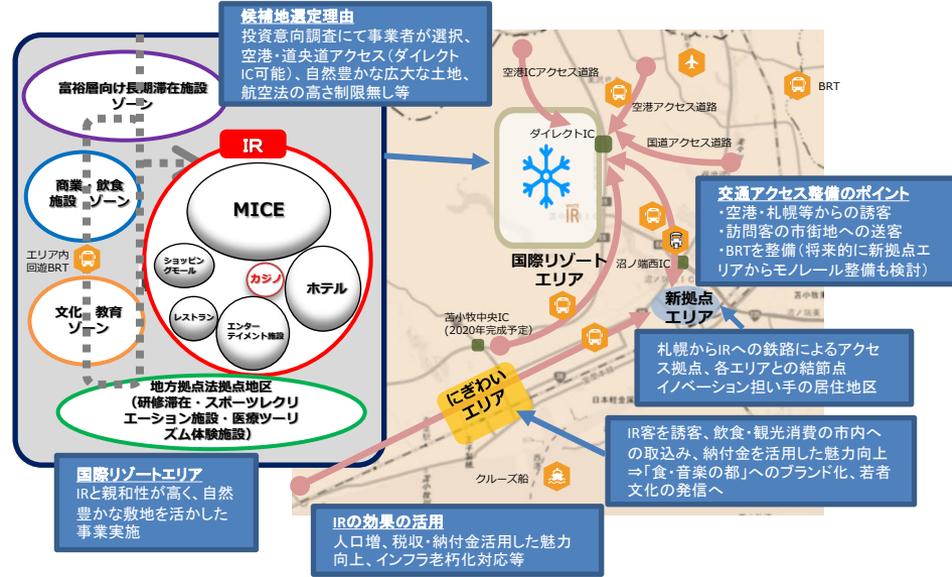
## 3. 北海道ゲートウェイ機能強化による観光振興への貢献



## 4. 国際リゾート構想に沿ったまちづくり

-イノベーションリゾートの実現-

### ゾーニングとアクセス整備 (市全体及び国際リゾートエリア)



### イノベーションリゾート

IRによる機会及び財源の創出、交流機能を活用し、新たな成長・次のイノベーションの担い手の育成を実現。

### スマートシティ

IoT・AI等を活用し、都市課題を克服を目指す。住民・IR訪問客の快適度・利便性の向上、安全安心の確保を実現する。  
道内・国内都市へのモデル展開、データ活用による収益センター化を図る。

- 渋滞回避
- 観光振興
- 商業振興
- 防犯
- 防災
- エネルギー
- 負の影響
- ヘルスケア
- 政策立案

### 新産業の創出

苫小牧のものづくりや陸海空アクセスを基盤として、IR・スマートシティでの仮説検証やMICEを活用し、北海道・苫小牧発イノベーション・新産業を創出する。

- 食農
- 環境技術
- ヘルスケア
- ホスピタリティ
- その他

### 教育振興

未来のイノベーションの担い手やクリエイティビティ溢れる新しい人材を継続的に生み出す教育振興施策を実行する。

- 国際ナショナルスクール
- ホスピタリティ・料理・エンタメ関連教育機関
- 教育MICEプログラム

# 5.国際リゾート構想の中核 WHITE IR

## 基本コンセプト及び個別施設構成

建設デザイン  
▶コンセプトを具現化した北海道観光の象徴となるデザイン

テクノロジーと環境の共生  
最新テクノロジーを活かしたECO建設・運営等、環境との共生の演出

ゲートウェイ  
北海道・日本観光の紹介（VR技術等活用）、ツアー手配コンサルティング  
IR訪問客の道内周遊観光、ダイレクトインバウンドの国内観光地への送客

ユニークMICE  
国際空港に隣接したアクセス至便なリゾート型MICEというユニークな国際競争力を追及  
国際会議場5,000人収容  
国際展示場3~5万㎡施設  
多種多様な会議・イベント対応

ゲーミングフロア施設  
面積3%以内  
IR運営の最大の収益源

北海道の物産販売  
ガストロノミーの追求

北海道 自然・食・文化ショーケース

世界で類を見ない自然派IR魅力創出。北海道観光・産業のショーケース機能



VIP/MASS向け宿泊施設  
長期滞在型施設  
部屋数1,000~2,000室、スバ施設

ウェルネスリゾート

清涼な本当の自然・森林を活かした健康づくりと癒しの提供。スポーツツーリズム等。

自然体験観光施設  
アイヌ文化体験施設  
ワールドクラスショー、テーマパーク  
ミュージアム・アート施設  
スポーツハブ・多目的スタジアム

ワールドクラスエンターテインメント



海外事業者のノウハウ活用  
ワールドクラスのショーパフォーマンス  
北海道観光の弱点のナイトエンタメを強化

### WHITE IRの生み出す効果（カネ）

※ 数値は観光等統計データ及び投資意向調査での事業者からの提供データを参考に試算

#### 機会創出

IR建設・運営他関連事業に伴う新たなビジネスチャンス

開業時想定投資額  
約2,200~3,000億  
想定売上高  
約1,200~1,600億

直接雇用  
約5,000~1万人  
生産誘発額  
(建設) 約4,400~5,500億  
(運営) 約1,600~2,100億

#### 雇用・調達創出

雇用増  
地元企業への発注

需要創出  
想定訪問客数  
年間600~839万人

インバウンド等大規模誘客

カジノ納付金（道・市計）  
約106~142億  
入場料（道・市計）  
約65~87億  
税金  
(市) 約25~35億  
(道) 約17~22億

財源創出  
多額の納付金・税収徴収  
観光振興・まちづくり活用  
依存症等、負の影響対策活用

### 雇用に係る課題（ヒト）

道全体の労働者人口減少  
観光・宿泊業は深刻な人材不足（待遇面の課題）

#### 施策

ひとを集める

好待遇・働き甲斐・自然豊かな職住を誘引に北海道以外の海外・国内より人材を採用

ひとを育てる

ホスピタリティ・料理・エンタメ関連の教育機関設置により実践教育と人材確保を目指す

待遇やりがい

付加価値向上と効率化による待遇・やりがいの向上。道全体の観光業の生産性向上に貢献

IR導入により、北海道全体の観光業の労働生産性と従業員待遇の向上を目指す

### 開発敷地・インフラ整備に係る課題（モノ）

#### インフラ整備

インフラ（交通アクセス・上下水道等）の整備とコスト負担の検討（事業者が応じるような条件の検討）

#### 土地利用形態・条件

所有OR賃貸、譲渡価額・賃料水準の検討  
インフラ負担とセットで検討、事業者負担を軽減し、投資促進へ

#### 開発規制

市街化調整区域のままでの開発検討  
事業選定開始までの対応完了を目指す

#### 環境規制

環境調査により環境負荷軽減を徹底した計画策定、法アクセス必要な場合は作業の前倒し・期間短縮化を検討

## 6.ギャンブル依存症等の負の影響対策

### ギャンブル依存症等の対策（自治体として）

#### 【ポイント】

- 既存ギャンブル等も含めた依存症損失の最小化
- 納付金・入場料を活用した充実した依存症対策

#### 【施策】

- 早期相談・介入・治療、社会復帰支援体制整備、関係機関連携体制確立、自助グループ支援
- 学生向けのギャンブル教育実施
- 事業者選定等（依存症対策を必須条件）
- 依存症研究機関設立、日本・道の実態も踏まえた実践的対策手法の開発

### 周辺環境対策

#### 【ポイント】

- 治安・風紀等の悪化防止の徹底（カジノ納付金等も活用）

#### 【施策】

- 無秩序な周辺・市街地開発防止
- 反社会勢力排除の徹底
- 最新テクノロジーも活用した防犯
- 青少年の健全育成
- 風営法対応

## 7.国際リゾート構想の実現に向けて

### 実現に向けた想定スケジュール（自治体関連）



#### 【推進体制】

- 道庁と苫小牧市の連携
- 専担プロジェクトチーム組成
- 有識者による推進会議
- 事業者への意見聴取

#### 【地域連携】

行政・IR事業者だけでなく、地域の企業・市民が連携しながら、真に地域に貢献するリゾート構想を実現